



新連載

自動車リサイクル業界を
担うホープ(3)

名前：伊庭 達也 (いば たつや) (28歳)

所属：有限会社菅野商事

部品生産担当

特技：自動車の整備

MBTI：管理者型（現実的かつファクト重視の気質があり、とても頼りがいがあります。）

— 仕事で誰にも負けない部分

部品の梱包

— この業界の魅力を一言で

自分達で回収した部品が再利用される

ところ。

— 将来の業界への期待
より多くの部品がリサイクル・循環されていくこと。

※MBTIとは認知・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。

INDEX

【新連載】自動車リサイクル業界を担うホープ / 巻頭言 —— P.1

【総力取材】社員総会・新体制の発表・懇親会様子 —— P.2

新代表理事挨拶 専務理事挨拶 —— P.3

【特集】資源回収インセンティブ制度の解説 Part 2 —— P.4

自動車リサイクル士申込期限迫る / 機構からのご案内 —— P.5

5月新車販売・使用済自動車発生台数 —— P.6

鉄スクラップ最新情報 —— P.7

行事予定・お知らせ / 編集後記 —— P.8

巻頭言

広報部会

小宮山 敬仁

今年に入ってから、ニュースレターの編集会議に全く参加できなくなってしまいました。半年間で3名の社員が退職し、彼らの仕事を一手に当職が引き受けることになり、一時期は月に1回程度しか休みの取れない時期があったのです。先月あたりから大分状況は改善され、久しぶりに広報委員会の懇親会に参加できました。

委員の皆さんから「大変そうですね!ではせめて巻頭言を書きましょう!!」と、大変【生】暖かいお言葉をいただき、仕事の合間を縫って書き綴っている次第です。社員が辞めた理由は機会があればまたお話しますが、共通しているのは、「引継ぎ無しのドタ辞め・・・」なかなかシビれます。

他の広報委員の皆さまには、ご負担をお掛けしていますが、新入社員も入っており、もう少しお時間をいただければ復帰できると思います。

01

▶ 総力取材] 2024年度定時社員総会—新体制の発表—

2024年度定時社員総会にて新体制が発表されました!

6月20日(木)に鉄鋼会館(東京都中央区)で開催された「2024年度定時社員総会」、新体制の発表も行われた今回の社員総会をレポートします。

新代表理事に石井 浩道氏が就任

副代表理事であった、石井 浩道氏が新代表理事、専務理事には阿部 知和氏が就任されました。

また、前任の理事に加え、種谷 謙一氏が新たに副代表理事に就任、前副代表理事であった埜村 岳史氏は監事に就任、大橋 岳彦氏は任期満了のため監事を退任となりました。更に中部・北陸ブロック長であった光山 広志氏の任期満了にあたり金森 幸元氏が就任されました。

なお、前代表理事の酒井康雄氏は相談役としてJAERA新体制をサポートいただけることとなりました。



理事・監事が並ぶ

氏名	役職	氏名	役職
理 事		中村 昌徳	中国・四国ブロック長
石井 浩道	代表理事	森田 光弘	九州ブロック長
阿部 知和	専務理事	松田 和生	沖縄ブロック長
永田 則男	副代表理事	吉岡 篤史	未来部会長
木内 雅之	副代表理事	田村 幸男	広報部会長
種谷 謙一	副代表理事	佐々木 健二	リサイクル技術部会長
平地 健	ブロック長会議長・東北ブロック長	奥野 孝樹	事務局長
菅野 康博	北海道ブロック長	監 事	
有原 良	関東ブロック長	石上 剛	監事
金森 幸元	中部北陸ブロック長	埜村 岳史	監事
赤松 健一	近畿ブロック長	相 談 役	
		酒井 康雄	相談役

会員交流会では資源回収インセンティブ制度に焦点

社員総会終了後には、会員交流会が開催され、今回は「資源回収インセンティブ制度について」阿部専務理事が講演されました。現時点で公開されている情報を整理し、この制度はどのような仕組みであるか、どのような建付けであるかを説明され、より多くの解体業者の方に参画いただくため今年度からJAERAが行う実証事業の内容と意味などに触れていました。最後には自動車リサイクル促進センターが開設した「資源回収インセンティブ制度特設サイト」にも言及されていました。



阿部専務理事の講演

懇親会 業界内外問わず多くの出席者で賑わう

懇親会にご来賓いただいた、自由民主党幹事長衆議院議員の茂木 敏充様、経済産業省製造産業局自動車課自動車リサイクル室長の原 充様、環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室の仲野 申一様、(公財)自動車リサイクル促進センター専務理事の永井 辰幸様にご挨拶いただきました。(一社)自動車再資源化協力機構代表理事、(一社)日本自動車工業会環境技術・政策委員会リサイクル・廃棄物部会副部会長の堂坂 健児様のご乾杯のご発声で会が始まり、終始会話の絶えない賑やかな会となりました。



堂坂様 乾杯のご挨拶

02

▶ 新代表理事・専務理事・相談役より就任のご挨拶

2024年度の「定時社員総会」及び「理事会」にて新理事・相談役が就任

2024年度の「定時社員総会」及び「理事会」をもって、新代表理事に石井 浩道（前副代表理事）、専務理事に阿部 知和（前参与）が就任いたしました。なお、前代表理事の酒井 康雄は相談役として引き続き当機構をサポートしていただきます。

石井新代表理事

このたび、JAERAの代表理事を拝命いたしました石井 浩道です。栃木県出身で、父の経営する自動車リサイクルに若い頃から携わり、当初は家業を継ぎたくない、出来ればフレンチシェフの道などを夢見ていましたが、気づけば自動車解体業界に飛び込んで、この道約30年を歩んでまいりました。

JAERAに関わったキッカケは今から4年前に、新橋の居酒屋で酒井前代表理事から「業界発展のために力を貸してくれないか?」と誘われたことでした。その後副代表理事として4年間勤め、特に資源回収インセンティブ制度の確立に尽力してまいりました。

SDGsの浸透、地球沸騰化の阻止、EU規則によるマテリアルリサイクルの推進など、時代は間違いなく我々にフォローの風を巻き起こしてくれています。しかし、足元は依然厳しい経営を強いられているのが、我が業界の立ち位置かと思えます。やる気のある経営者たち、そして明るい未来を信じてやまない素晴らしい社員さんたちとともに力を合わせ、この業界をさらに発展させていければ幸いです。

JAERAとして、会員企業全体の幸福や利益を追求するための課題の共有と解決策の模索を行い、共通の課題に対して協力し合いながら業界全体の発展に寄与していきます。

今後も皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ともに業界の未来を切り拓いていきましょう。

酒井相談役

6月20日の総会を持って代表理事を退任し、相談役として機構活動のサポートをしていくことになりました。代表理事の任期中は皆様のご理解とご協力により、事業を進めることができました。改めて深くお礼を申し上げます。

カーボンニュートラル、電動化、国内資源循環など変化が加速している中、石井代表理事、阿部専務理事を中心として、経験豊かな常任役員、ブロック長、部会長の皆さんが力強く事業を進めてくれることを確信しています。とはいえ、皆さん1社1社の積極的参加あってこそこの機構の活動です。これからも今まで以上のお力添えをお願いいたします。



Copyright© 株式会社サステナ・メディア・ラボ Sustaina Media Lab Co.,Ltd All Rights Reserved

【社員総会での一枚

左から：酒井相談役 石井新代表理事 阿部専務理事】

阿部専務理事

このたび、専務理事を拝命いたしました阿部です。JAERAに昨年9月入社し、参与としてJAERAの活動の支援を行ってまいりました。Honda、自工会、自再協、JARCとこれまで多くの職場で自動車リサイクルに携わってきました。酒井前代表から「最後は社会貢献ですよ」と説かれて、最後の職場?にJAERAを選ばせて頂きました。これまでの経験から、リサイクルには協調領域が多いと認識しており、各関係者の連携と調和が重要と感じております。資源回収インセンティブを始めとした資源循環への取り組みは、将来に向けたJAERAとしての重要な課題であり、また解体入庫車輛台数の低下への対応も重要な問題と認識しています。このような重要な転機に、新たに専務理事というポストも設けて就任したことの重責を感じております。これからもJAERAの体質強化と自動車解体業界の発展に向け活動を進めますので、皆さまのご協力とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



03 ▶【特集】資源回収インセンティブ制度を紐解く（Part2）

再生材を取り巻く環境—ヨーロッパの状況—

前号に引き続き、資源回収インセンティブ制度を正しく理解いただくための特集第2弾!!今号では再生材を取り巻く環境や自動車メーカーの目標について解説を行っていきます。

欧州委員会（EC）は2023年7月13日に「自動車の循環設計とELV管理規則」（案）（以下、本規則案）を公表しました。本規則案が施行されることにより、日本からの対象製品のEUへの輸出にあたり対応が必要になってきます。そのなかで以下の3つのポイントに着目してみます。

①デザイン・サーキュラー

自動車の設計と生産における循環性を高めることは、自動車が容易に解体できるようにすることにつながる。自動車メーカーは、解体業者に対し、自動車の使用中および使用済み段階における部品やコンポーネントの交換・取り外し方法について、明確で詳細な指示を提供する必要がある。

②リサイクル素材の使用

新車の製造に使用されるプラスチックの25%以上は、リサイクルされたプラスチック（再生プラスチック）を使用することが義務付けられ、加えて、その25%以上の更に25%以上（全体の6.25%以上）は、使用済自動車由来の再生プラスチックでなければならない。

③処理の改善

使用済自動車から排出されるプラスチックの30%をリサイクルすべきとする。

上記の②の条件を満足するには、私たちが日頃処理を行っている使用済自動車からプラスチック部品などを回収して、そこから作られた再生プラスチックを新車製造時に6.25%以上使用せねばならないといった形になると考えられます。その場合は自ずと再生プラスチックの需要が今よりも高まっていくのではないかと推測されます。

自動車メーカーの目標値

再生材についてヨーロッパの状況を本規則案から読み取りましたが、ここで現在の自動車メーカーの動きを整理してみます。

例えば、トヨタ自動車は2030年には再生材樹脂使用率を3倍以上、リサイクル材30%利用を目標としております。他のメーカーも再生材の使用率の目標を掲げており、こういった点からも、再生プラスチックなど再生材需要の高まりがそう遠くない未来で起きてくるのではないかと考えられます。

メーカー	目標年度	目標値
トヨタ	2030年	再生材樹脂使用料を3倍以上、リサイクル材30%利用
日産	2022年	材料の30%を新規採掘資源に依存しない
	2050年	材料の70%を新規採掘資源に依存しない
ホンダ	2050年	サステナブルマテリアル*使用率100%
スバル	2030年	プラスチックの25%以上をリサイクル由来素材
ルノー	2033年	新車の再生材使用33%以上
ボルボ	2025年	リサイクル素材およびバイオ素材使用率25%

※環境負荷のない持続可能な資源

今回は再生材（主に再生プラスチック）について、ヨーロッパでの状況や自動車メーカーの動きから今後の再生材の需要の高まりの可能性について解説をしました。次号では、インセンティブ制度の課題やコンソーシアムについて解説を行います。

04

▶ 自動車リサイクル士新規講習会の申込締切日迫る!

2024年度自動車リサイクル士新規講習会の申込締切日について

新たに自動車リサイクル士を取得する方向けの2024年度自動車リサイクル士新規講習会の申込締切日が近づいてきております。本講習会は1年に1回のみ開催となり、また、各受験会場には定員を設けられておりますので、受講を検討されている方はお早めにお申込みください。

■ 申込締切日：2024年7月19日（金）※当日消印有効

お申込・詳細はこちら▶

<https://www.elv.or.jp/35-87-0.html> (リンク先の「2024年度講習会関連情報!」をクリック)

【お問い合わせ先】

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 事務局 (担当: 京野)

■TEL: 03-3519-5181

■FAX: 03-3597-5171

■Mail: jaera-homepage@elv.or.jp

05

▶ 機構からのご案内

新 JAERA リーフレットが出来上がりました!

機構 (JAERA) の未来部会ではこの度、会員増強施策の一環として、新しいリーフレットを作成しました!

表紙デザインには、環境保護と持続可能性、車の未来と地球の未来を感じさせるという想いが込められています。

「どんな組織でどれくらいの規模なのか」や、「どんな活動を行っているのか」など詳細が記載されており、JAERAを知らない方に活動を理解いただくツールとして、また、入会の勧誘する方も説明しやすくなるようなツールとしてもご利用いただけます。

今後は各地域にリーフレットの配布も考えておりますので、未永くお使いいただけたら嬉しいです。

データ版はこちら▼

<https://www.elv.or.jp/media/20/20240628-JAERA-reeflet.pdf>

機構ホームページ バナー広告の募集

機構 (JAERA) のホームページでは、バナー広告を募集しております!

バナー広告が掲載されるTOPページには、JAERA会員の方のみならず、業界関係者の方からも数多くのアクセスがあります。現在は、解体業者の方、貴金属や素材のリサイクルを営む方など、業界に関係する皆様のバナー広告を掲載中ですが、まだまだ掲載枠をご用意しておりますので、この機会に是非掲載をご検討ください!

詳細・お申込はこちら▼

<https://www.elv.or.jp/media/Rakude/banner20190801.pdf>


【赤丸部にバナー広告を掲載中】

06

2024年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業
5月出荷状況と今期累計

上段：5月出荷数 下段：今期累計 単位：個

参加会社数 (社)	プリウス20	プリウス30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィルダー	クラウンHV GWS204	クラウンHV AWS210
27	8	54	1	0	39	0	1	1
41	28	153	1	0	134	1	1	2
SAI/レクサス HS250H	日産デットロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタHV	プリウス50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品A~C	合計
0	0	1	0	1	0	0	14	120
1	2	2	2	3	0	0	44	374

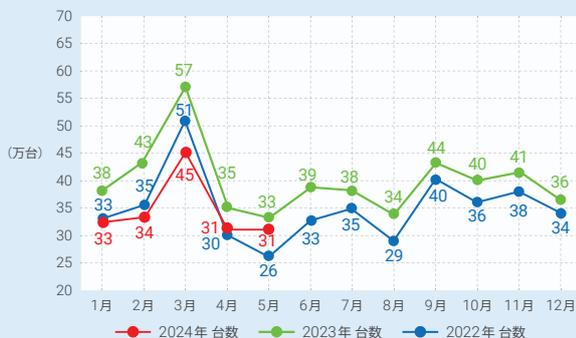
2023年度の結果はこちら ▶

<https://elv.or.jp/index.php?itemid=1906>

07

5月新車販売・使用済自動車発生台数

2024年5月度 新車販売台数 312,406台 (前年同月比95.6%)

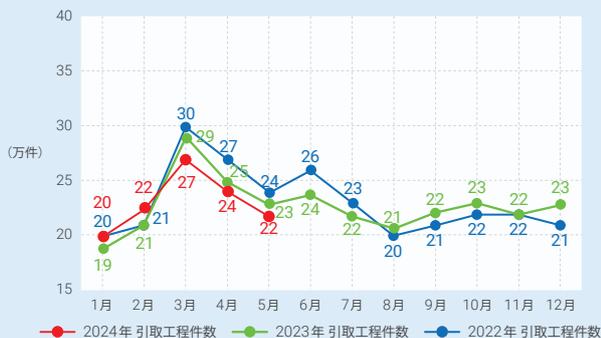


新車販売の月別推移 (2024年 2023年 2022年)

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会

過去の新車販売台数推移		
年累計	台数	前年比 (%)
2024年 (5月まで)	1,753,891	85.2
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2010年	4,598,615	88.5

2024年5月度 使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況



使用済自動車引取件数の月別推移 (2024年 2023年 2022年)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

引取件数	
5月	220,929件 (前年同月比96.3%)
フロン回収工程	
5月	198,807件 (前年同月比96.7%)
解体工程	
5月	230,788件 (前年同月比96.6%)

08

鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

6月第5週（24日）の鉄スクラップ動向



6月24日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	50,500 ~ 52,500	様子見
	南関東	50,500 ~ 52,500	様子見
	浜値	49,500 ~ 50,500	様子見
名古屋		50,000 ~ 52,000	様子見
関西	大阪	51,000 ~ 52,500	様子見
	姫路	50,000 ~ 50,500	様子見

台湾の輸入コンテナ積み市場は堅調 鉄筋需要は伸びず

台湾のコンテナ積み輸入鉄スクラップ市場は、成約数量は少ないものの価格は安定推移しており、堅調感が持続している。ただ、高温多雨の時期となり建設工事の進捗が遅くなっているため鉄筋需要は伸びていない。このため鉄スクラップについても強気材料に乏しいが、発生自体も少ないため相場が維持されている。

6月第4週前半の成約では、米国玉のHMS1&2(80:20)がCFR342~345ドルの範囲で決まった。直近の米国シッパーのオファーはCFR345~355ドル。これに対してビッドはCFR340~345ドルが提示されており、ほぼ成約と同水準にある。なお、日本からのH1:H2(50:50)のオファーは350~366ドルと幅があるが、いずれも成約には結び付いていない。なお、ほとんどの台湾電炉は電力料金が高い日中の操業を行っておらず、この体制は10月まで続くと見られる。

中国の輸出ビレット、オファーが上昇

6月第4週、中国の東南アジア向け輸出ビレットのオファー価格が前週比でおおよそ10ドル上昇した。マニラ向け5sp 150mmが高値でCFR518ドル、別のメーカーからのオファーでもCFR512~515ドルが出ている。

関東 調整的な値動きで上げ下げ交錯

関東市場の需要家筋の鉄スクラップ入荷にはバラつきが見られ、購入価格を値下げする動きが見られる一方、値上げを実施する動きも出ている。ただ、いずれも中心値の範囲内での調整的な値動きにとどまっている。H2炉前実勢価格は50,500~51,500円中心、高値52,000~52,500円見当。中心値の範囲内での小幅な値動きが散見される。H2浜値は49,500~50,500円中心で、電炉購入価格より安値水準で様子見横ばいだ。

東海 東鉄・田原工場が値戻し、大半の電炉は様子見

名古屋地区の市況は大勢様子見のまま6月下旬を迎えた。6月18日には、前月25日に発生した製鋼関連設備のトラブルにより製鋼を休止し購入価格も引き下げていた東京製鉄・田原工場が値戻しを実施、同工場に合わせて値下げした近隣電炉も値上げに追随した。その一方で、大半の地区電炉は田原工場の価格変動に対応せず2カ月以上にわたり模様眺めを続けている。H2炉前実勢価格は50,000~51,500円中心、高値52,000円見当。

大阪 大勢様子見も市況に不安定さ残る展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は様子見横ばいが続く。ただ電炉需要の異なりに加え、地区実勢の高値は東京製鉄と比べても割高なことから、市況の不安定さが残ったまま下旬へ向かっている。中山鋼業が6月前半に続き、後半からも値下げに踏み切ったが、他の電炉筋に追随の動きは見られなかったため、実勢圏内の動きにとどまっている。H2炉前実勢価格は、大阪地区が51,000~52,500円中心、姫路地区が50,000~50,500円中心。

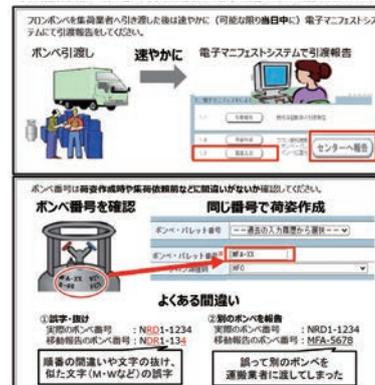
(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、5月24日午前時点のもの)

09

お知らせ —自動車再資源化協力機構（自再協）より—

フロン類引渡報告忘れ・ボンベ番号間違いが増加しています！

昨今、フロン類の引渡報告忘れ・ボンベ番号間違いが増加しています。指定引取場所にてフロン類の引取報告ができなかった場合、フロン類を回収できず返品となり、皆様に返品料金の負担と、返品～再引渡しによるボンベが使用できない期間が長く生じることとなりますので、フロン類回収業者の皆様は速やかな引渡報告とボンベ番号に間違いがないか改めてご確認をお願いいたします。



詳細はこちら（自再協 HP）

<https://x.gd/rKNSc>

編集後記



7月には新紙幣が発行されます。紙幣のデザインや肖像画は、おおよそ20年毎に変更され、これまでに53種類もの紙幣が発行されてきたようですが、1万円札の肖像画は40年ぶりの変更だそうです。その理由は一も二もなく偽造紙幣を作らせない為です。印刷業者の知人に（もちろん）冗談で「偽札って作れるの?」と聞いてみたら、「お札に使う紙は特殊で、民間では手に入らないので偽札は絶対無理」と言っていました。

紙と言えば私など“手紙”を連想してしまいます。陰暦の異称で7月は「文月（ふづき、ふみづき）」と言いますが、これは文字通り文を書く月だそうです。七夕の彦星・織姫になぞらえて、お互いの無事確かめるため、便りや贈り物をして気持ちを伝え合うという説があります。ところが、最近はLINEなどの連絡手段が便利だからか、手紙を書かない人が多くなりました。調べると、全国の郵便ポストの4分の1ほどは、1日に1通も手紙などが投函されていないとのことでした。この秋には郵便料金の値上げも予定されていますので、益々手紙を書く人が少なくなるかもしれません。

最近は私も手紙を書かなくなりましたが、遙か昔、片思いの女の子に自分の思いを何時間もかけて、たった1枚の便箋にしたためたことを昨日のように思い出します。

広報部会長 田村 幸男

7月の主な行事予定

- 2日(火) | 第4回広報部会 (WEB)
- 9日(火) | J-FAR (エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり) 定例会 (WEB)
- 18日(木) | J-FAR (資源回収インセンティブ実装事業) 定例会 (WEB)
- 19日(金) | 自動車リサイクル士新規講習会 受講申込み締切 (当日消印有効)
- | 自動車リサイクル士更新講習会 受講申込み開始

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

